

令和 2 年 6 月 20 日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K00465

研究課題名(和文) 一橋大学社会科学古典資料センター所蔵の旅行記についての研究

研究課題名(英文) Study on Books of Travel Deposited at the Center of Historical Social Science Literature, Hitotsubashi University

研究代表者

江夏 由樹 (Enatsu, Yoshiki)

帝京大学・経済学部・教授

研究者番号：10194002

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本プロジェクトは一橋大学社会科学古典資料センターのメンガー文庫、フランクリン文庫等に所蔵されている18-19世紀における西欧人のアジア旅行記について調査を行い、該当する旅行記の一冊一冊について、その書名、著者名、出版年、旅行者、経路、訪問地、旅行目的、旅行時期、地図・挿絵の有無などを明らかにした。

研究期間内に英語(30件)、フランス語(42件)、ドイツ語(2件)の文献、計74件の資料調査を完了した。調査対象となった資料のうち、日本の他の図書館、研究機関等に所蔵されていないものが12件含まれていた。3年間の調査の概要は『一橋大学社会科学古典資料センター年報』(40号)にまとめられている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

一橋大学社会科学古典資料センターのメンガー文庫、フランクリン文庫、一般貴重書などには数多くの西欧人のアジア旅行記が所蔵されていることを明らかにし、それらが今後の東西考証史の研究にとって貴重な文献となること、また、一部の資料は日本国内では本センターの所蔵のみであることを確認できた。さらに、資料のなかには、旅行記であると同時に、そこにはその時代の貴重な歴史資料を含んでいることも明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：This project made research on the books of travel deposited at the Center of Historical Social Science Literature, Hitotsubashi University. We focused upon the books of travel written by western people who traveled in Asia in the 18-19th centuries. We surveyed the 74 titles of English, French and German books. We made the list of names of books, authors, travelers, their destination and route, their purpose, period of travel, and maps and illustrations included there. 12 titles of these books are not deposited at any other library or research institute in Japan.

The outline of the research was summarized in the annual research report of the Center.

研究分野：東アジア史

キーワード：一橋大学社会科学古典資料センター 西欧人による旅行記 18-19世紀 アジア

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

優れた旅行記は歴史研究の貴重な史料・情報源である。一つの社会が異文化世界への接触を開始するにあたって、最初の情報提供者となったのはこうした旅行者、冒険家であった。そして、外部世界からの訪問者が見た異文化社会の様子は、しばしば、訪問先となった当該社会の人々が記録していない情報を数多く含んでいた。これまで、歴史学、地理学、民俗学、人類学などの分野では、様々な旅行記を基礎史料・情報源として、研究を進めてきた。研究代表者(江夏)も近代の中国東北部(満洲)・シベリア・モンゴル等の社会経済史を研究するなかで、間宮林蔵、鳥居龍蔵などの残した記録を参照し、これら旅行記の有用性を強く認識してきた。

一橋大学社会科学古典史料センター(以下、センター)のメンガー文庫、フランクリン文庫などには、約8万冊に及ぶ西洋古典資料が収蔵されている。これまで、経済思想史、社会思想史などの分野においては、これら資料の研究利用が活発であった。他方、センター所蔵資料のなかには、西欧人の旅行記も数多く残されている。その多くは、18 - 19世紀にロシア・モンゴル・東アジアを訪問した西欧人が英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語などの言語で記したものである。研究代表者(元センター長)の江夏、研究分担者(元センター専門助手)の福島、床井は、かつて、センター業務の一環としてこれら旅行記の整理に努めてきた。本研究はそうした作業を科研プロジェクトとして発展させ、これら旅行記群を本格的な研究対象として捉えていくことを試みた。なお、本研究に先行して、科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究)「一橋大学社会科学古典資料センター所蔵の旅行記についての研究」(課題番号:24650125、2012~2014年)を行ったが、本研究はその成果を基礎として、研究の深化を図った。

### 2. 研究の目的

上述のように、センターが所蔵するメンガー文庫、フランクリン文庫などには18 - 19世紀の西欧人がロシア、モンゴル、中国などの東アジア各地を旅行した際の記録である書物が数多く残されている。

(1) 本研究は、まず、期間内(3年)にそうした旅行記群の全体像を明らかにし、各旅行記について、著者(旅行者)、旅行の年代、旅行目的、経路・訪問地、同行者、使用言語、挿絵・地図等の有無、旅行記の概要・特長などをまとめることを目指した。これにより、センター所蔵の旅行記の概要を掌握することを目的とした。

(2) 次に、歴史地理情報として重要性が高い旅行記の選定、その読解を進め、その内容が歴史学、地理学、民族学、人類学などの研究分野に対してどのような貢献をなし得るかについて検討することを目指し、成果をセンター発行の『年報』等で公表することを目指した。

上記の課題を遂行することにより、センターが所蔵する旅行記群を広く研究者の利用に供するための基盤構築が行われることを目指した。本研究の進展により、これまであまり着目されてこなかったセンター所蔵旅行記の資料的価値の再認識がなされる可能性が高い。それにより、一つ一つの旅行記を核として、歴史学、地理学、民俗学、人類学などの分野を跨いだ共同研究の組織化の可能性が生まれてくることが期待できる。

### 3. 研究の方法

本研究は次のような方法で進めた。

(1) 旅行記の目録作成

メンガー文庫、フランクリン文庫、一般貴重書に含まれる西欧人のアジア旅行記のうち、英語、フランス語、ドイツ語で記された資料について調査を進めた。いずれも稀覯図書であり、保存状態の良くないものも含まれていることから、まず、その保存状況の確認から着手した。アルバイト(大学院生)を雇用し、調査対象となった資料一冊一冊について、旅行記の書名、著者、旅行者、旅行の年代、旅行目的、経路、訪問地の詳細、同行者、使用言語、挿絵・地図の有無などを明らかにし、内容の要約を付して、目録としてまとめた。同一タイトルの翻訳書も含まれているので、その異同についても調査した。

(2) 研究会での報告・意見交換

研究会を年に2回開催し、目録作成とは別に、研究代表者、分担者、協力者がそれぞれ読み進めた旅行記の内容を相互に紹介、意見交換を行った。

(3) 研究成果の講評

プロジェクトの進行過程での研究成果は、随時、「一橋大学社会科学古典資料センター年報」、近現代東北アジア地域史研究会などの研究誌等で公表した。そうした活動から関係する研究者から貴重な助言を得ることができた。

4. 研究成果

一橋大学社会科学古典資料センターのメンガー文庫、フランクリン文庫、一般貴重書などには数多くの西欧人のアジア旅行記が所蔵されていることを明らかにし、それらが今後の東西考証史の研究にとって貴重な史料となること、また、一部の資料は国内では本センターの所蔵のみであることを確認した。具体的には次の通りである。

(1) センター所蔵の西欧人旅行記の概要整理

大学院生を雇用し、一冊一冊について該当する旅行記の内容を明らかにした。英語、フランス語、ドイツ語の資料、計74件の書名、著者、旅行者、旅行の年代、旅行目的、経路、訪問地の詳細、同行者、使用言語、挿絵・地図の有無などを明らかにし、内容の要約を付して、目録としてまとめた。

(2) 個別資料の分析

調査対象となった資料から、特に稀覯本であり、研究対象として興味深い数点についてその内容を精査した。如何に例示的に挙げる。

Adolph D'Avril (1822-1904)の記した書。本書はアラビア史概略、アラブ人の特徴、メッカ巡礼の三章で構成されており、とりわけ、「メッカ巡礼」についての記述が興味深い。著者自身がメッカを巡礼したわけではないが、そこには、19世紀半ばのメッカ巡礼のルート、その規模などが各種資料を駆使して紹介されている。とりわけ、本書の「補遺」である「1865年におけるコレラ感染の流行」に関する記述では、古くからアジアに存在していた感染症が19世紀になって初めてヨーロッパに伝播したのは、メッカ巡礼が原因だと説明している。人の移動や交通網の発達から「流行病」を捉えようとした、こうした分析などは貴重な歴史資料といえよう。

Jean Charles-rouxらの記した資料。この資料はフランスの東アジアにおける植民地の状況を説明している。1900年のパリ万博の際、フランスの植民地、あるいは、フランスと関係の深かったコーチシナ、カンボジア、アンナン、トンキ

ン、ラオス、広州湾租借地などを紹介するパビリオンが設けられ、本書はそこで配布されたと思われる。

Henry Stevens の著書。1522 年 9 月 22 日から 1603 年 6 月 28 日までに記されたイギリス東インド会社のインドオフィスに保管されていた「マニユスクリプト」が収録されており、貴重な歴史資料である。

H.W.S. Cleveland の書。18 世紀末から 19 世紀初頭にかけて、アジア、ヨーロッパ、アフリカなどで活躍した貿易商である彼の父 (Richard Cleveland) から送られてきた書簡をおさめており、貴重な歴史資料である

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

|  |                      |
|--|----------------------|
| 1. 著者名<br>江夏由樹   | 4. 巻<br>30           |
| 2. 論文標題<br>近現代東北アジア地域史研究会創立30周年を迎えて  | 5. 発行年<br>2018年      |
| 3. 雑誌名<br>近現代東北アジア地域史研究会ニューズレター  | 6. 最初と最後の頁<br>1, 2   |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし   | 査読の有無<br>無           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>-            |
| 1. 著者名<br>江夏由樹・福島知己・床井啓太郎  | 4. 巻<br>38           |
| 2. 論文標題<br>科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) 「一橋大学社会科学古典資料センター所蔵の旅行記についての研究」中間報告 (1)                             | 5. 発行年<br>2018年      |
| 3. 雑誌名<br>一橋大学社会科学古典資料センター年報   | 6. 最初と最後の頁<br>41, 46 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし   | 査読の有無<br>無           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>-            |
| 1. 著者名<br>江夏由樹・福島知己  | 4. 巻<br>40           |
| 2. 論文標題<br>2017年度～2019年度科学研究費助成研究 (基盤研究 (C)) 「一橋大学社会科学古典資料センター所蔵の旅行記についての研究」 (研究代表者: 江夏由樹) についての報告 | 5. 発行年<br>2020年      |
| 3. 雑誌名<br>一橋大学社会科学古典資料センター年報   | 6. 最初と最後の頁<br>1, 7   |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし   | 査読の有無<br>無           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>-            |
| 1. 著者名<br>FUKUSHIMA, Tomomi  | 4. 巻<br>20           |
| 2. 論文標題<br>Project et formation du Nouveau monde industriel et societe                             | 5. 発行年<br>2019年      |
| 3. 雑誌名<br>Cahiers Charles Fourier  | 6. 最初と最後の頁<br>53, 65 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし   | 査読の有無<br>無           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-            |

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

|                                |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名<br>福島知己                |
| 2. 発表標題<br>フーリエ研究の現在           |
| 3. 学会等名<br>第43回社会思想史学会大会（招待講演） |
| 4. 発表年<br>2018年                |

〔図書〕 計1件

|                               |                 |
|-------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>高橋暁生、森村敏己、山崎耕一、福島知己 | 4. 発行年<br>2019年 |
| 2. 出版社<br>刀水書房                | 5. 総ページ数<br>300 |
| 3. 書名<br>「フランス革命」を生きる         |                 |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                         | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)                   | 備考       |
|-------|---|---|----------|
| 研究分担者 | 床井 啓太郎<br><br>(TOKOI Keitaro)<br><br>(20508650)   | 一橋大学・社会科学古典資料センター・助手<br><br><br>(12613) | 2018年度のみ |
| 研究分担者 | 福島 知己<br><br>(FUKUSHIMA Tomomi)<br><br>(30377064) | 帝京大学・経済学部・准教授<br><br><br>(32643)        |          |